

ケアハウスあじさい事業報告

(令和6年度)

基本方針より

「ケアハウスあじさい」での生き生きとした暮らしづくりに向けて、転倒骨折などの事故防止や介護予防活動、健康づくり活動に積極的に取り組んでいくとともに、入居者一人ひとりのアセスメントによる個別援助計画を作成し、質の高い個別ケアに取り組んでいく。

1. 生活環境作り

- ・ 季節に合わせた飾り物(しめ縄・鏡餅・ひな人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等)を施設の共用の場に飾り、施設の庭で咲いている花や、時には購入した生花を置くなどし、入居者に季節感を楽しんでもらった。
- ・ 入居者は職員と一緒に相談しながら飾り付けをすることで、一体感を持ち共用場所の空間に関心を持ってもらった。
- ・ 庭に動物の置物を置いたり花などのオブジェを飾ることで、入居者の憩いの場所として、庭にやすらぎと華やきをもたらしたことを維持継続した。

2. 介護予防及び健康づくりへの推進・充実

- ・ いきいきクラブでは、入居者からのアンケートをもとに、できるだけ身体を動かすことを中心に体操やストレッチを行い、時にはゲームなどをして参加意欲をかき立て健康づくりに関心を持ってもらえるよう努めた。
- ・ 秋には芋煮会の前にポッチャ大会を開催した。普段体操に参加されていない方も参加され、熱心にゲームに取り組まれていた。
- ・ コロナ禍でも、毎朝決まった時間にラジオ体操をすることで運動不足の予防にも繋がっている。
- ・ 言葉遊びや脳トレなどの、認知症予防にも関係する要素も取り入れたレクリエーションなど楽しみながら参加していただけるよう企画し行った。

3. 地域化活動

- ・ 今年度もコロナウイルス感染症の流行により浦安小学校との交流行事が中止となった。
- ・ 地域交流での「あじさい夏祭り」は感染症予防のため地域の方との交流は行わず中止となった。
- ・ 「さくら」の活動については、毎週月曜日に活動しており、体操後の団らん時に時々参加させていただき、参加者とのコミュニケーションを図った。また参加者からの要望もあり栄養士からの食事についての話をさせていただいた。今後も時々行って欲しいと希望をいただいている。

- ・ 「キッズチャレンジ」(夏休みフリー塾)については昨年度と同様コロナ感染予防の観点から、会場の提供は控えて、人員のみの協力として参加を計画した。今年度は「宿題をしよう」「食べ物折り紙」を開催し子ども達から好評を得た。
- ・ 「子ども食堂」については、浦安を中心として有志が集まった「みんなの広場浦安」において、毎月子ども食堂を開催しており、地域の社会福祉法人として参画している。令和5年から継続して参加し、地域の色々な人々と交流できている。

4. 感染症・食中毒の予防・まん延防止と健康管理

- ・ 今年度、1棟で年間4名の方がコロナウイルスに感染した。感染者は居室で隔離し、感染が拡大しないよう職員間で情報を共有し、協力しながらマニュアルに沿った対策に努めた。また主治医からの指示を仰ぎながら感染者の体調を観察し、隔離生活が解除となるまで様子観察した。このことを今後の対策や業務継続計画(BCP)に生かしていく。
- ・ 外部のデイサービスに通われている入居者の中で、コロナ感染者と接触した可能性のある方がいた時は、施設内で感染症が蔓延しないために、念のためその方を隔離し、様子をみさせていただいた。
- ・ 今年度もコロナウイルス感染症が流行したこともあり、昨年度から引き続き感染症予防のために必要な内容を掲示し、入居者には茶話会や給食委員会で注意奮起を行い感染症予防についての啓発を行った。
- ・ 感染症対策の研修時に、今年度新型コロナウイルス発生時の対応について改めて振り返りをし、今後のために職員間で情報共有をした。
- ・ 外部講師の施設内研修では「高齢者施設における感染症の理解と対応」という内容で感染症全般について講習を受けた。
- ・ 冬場のノロウイルス発生時の対応として「嘔吐物処理について」の研修会を行った。
- ・ 共用部分の手すりや取っ手の毎日の消毒と、来客者に向けた手洗いうがいのポスターでの啓発、自由に使って頂けるように玄関にマスクを置いて予防対策を行った。
- ・ 職員への感染症対策を引き続き徹底し、外部からの訪問者には面会時の健康観察を継続した。
- ・ 食堂に空気洗浄機を置き、テーブルには飛沫防止のためのアクリル板を設置するなどし、感染予防に努めた。
- ・ 定期健康診断(胸部レントゲン4月)、インフルエンザ予防接種(11月)の実施。
- ・ コロナウイルスワクチン接種については施設で一斉での接種は行わず、各々で主治医などに相談していただき必要と判断された方については接種されていた。
(入居者・法人職員)
- ・ インフルエンザ注意報や警報の発生時には、啓蒙のポスターを張り出し、入居者や職員に知らせた。
- ・ 職員や家族が感染症に掛かった場合の対応について感染症委員会で話し合い見直しを行った。

5. 事故防止対策の徹底

- ・ 施設設備の使用について、入居者から意見を伺う機会（茶話会）を作ることで、予防に向けた早期の対応を実施した。
- ・ 居室での転倒時や体調が悪い時に、ナースコールを使用される方が何人かいらっしやった。今後も居室のナースコール緊急時の連絡体制に不備の無いように努めていきたい。
- ・ 施設設備の不備による事故発生防止の「設備点検管理表」による定期的な点検ができなかった。来年度の課題として計画していく。

6. 栄養・給食

- ・ 毎月の給食委員会で入居者代表の方に参加していただき、給食についての率直な意見をうかがい、日々の食事に入居者の希望が反映されるようにした。
- ・ 食事アンケートを行い、より個々の詳細な意見を徴収し、食事についての満足度の向上に努めた。
- ・ 施設の中庭で鉄板焼きをして、外で食事をしていただくことでいつもとは違った雰囲気です食事を楽しんでいただいた。
- ・ 出前食事会の日をつくり、外食に出掛けられない方にも外食の雰囲気を味わっていただき出前の食事を楽しんでいただいた。
- ・ 季節に応じた行事食を行うことにより、昔ながらの風習を懐かしんでいただき、普段とは違った食事内容でメリハリをつけることで入居者に喜んでいただけた。
- ・ 献立表を貼りだし、飾り付けをしたり、あらかじめ行事食のお知らせをするなどして、給食に興味を持っていただけるようにした。

7. 職員の質の向上

- ・ 年間計画を立て、おおよそ毎月一回は外部講師を招いて、施設内研修を行うことができた。
- ・ 感染症対策に関しては、特に重点的に年4回の研修会を行うことで感染症に対する知識を深め、対応力を高めることができた。
- ・ 各部署のリーダーを対象とした研修を行い、組織力の強化に図った。
- ・ 認知症の研修では他施設の利用者さんに直接意見を伺うことができ、認知症に対しての理解をより深めることができた。
- ・ ケアハウスという「見守り支援」の特徴から、状況判断を伴う臨機応変であり、かつ入居者や家族の立場に立った気配りが求められている「豊かな人間性」が今後の研修の課題である。

8. 2棟におけるグループホーム的ケア（認知症ケア）

- ・ 3月現在、認知症高齢者8名の心身状況となっている。2棟での支援が認知症ケアというだけでなく、広義での高齢者にとっての家庭的な空間での安心した生活を送っていただく場所となっている。

- ・ 1棟から2棟へ転居することにも取り組み、1棟入居者の安心にも繋がっている。
- ・ 少人数での生活で、それぞれが居心地の良い居場所となるように支援していく、また個別援助を明確化し具体的に行っていくことを引き続き課題としている。
- ・ 2棟で孤立した生活を送るのではなく、1棟の方達と一緒に行事へ参加をするなど交流を持ち、人との繋がりを持っていただく。
- ・ 介護保険サービスを利用し、より安心して暮らしていただけるような工夫を行っていく。

9. 趣味・余暇活動実施

- ・ 園芸が趣味でお元気な方が施設の庭の草取りなどを不定期に行って下さっている。
- ・ 秋にはコロナ感染症予防に気をつけながら、和気・吉永方面へ旅行に出掛けた。天気も良く、八塔寺ダムを見学しながら紅葉を楽しむことができた。昼食を食べたあとはヤクルト工場を見学した。
- ・ 今後コロナ感染症が落ち着けば、入居者が充実した時間を過ごせるように関心のあるクラブ活動を増やしていきたい。他にも来て頂ける講師やボランティア等、検討していくことが課題。
- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染予防のために、押し花教室については、毎月先生と相談しながら状況に合わせて行った。

10. 職員体制 R7. 3現在

施設長	事務員	生活相談員	介護職員	管理栄養士
1名	1名	(正) 1名	(正) 3名 (非) 2名	(非) 1名

11. 防災

- ・ 年3回の避難訓練・消火訓練については計画通り実施することができた。
- ・ 消火器を使用し消火の練習を行った。
- ・ 避難計画について今後も災害の種類に応じた計画を立てていく。
- ・ 水害の際、垂直避難を可能にするため屋上へ上がる階段を設置した。また、屋上へ対策用品を備蓄した。

12. その他

茶話会（入居者全員と情報・意見交換）を毎月開催し、入居者間の親睦及び共同生活上での問題点等の改善に努めた。

13. 今後の課題

新型コロナウイルスは引き続き存在し、世間の感覚では予防対策への温度は下がってきて

おり、むしろ施設には入りやすくなってきている。潤沢な検査キットや用品の準備ができな
い中、今年度から試している様子観察を中心とした感染者対応を次年度もさらに継続発展さ
セルール化することで業務継続計画を更新していく。

また、福祉業界全体でいえることであるが、感染症への心配から施設行事や地域交流は減
少したままなかなか以前のようにには戻っていない。今までのやり方にこだわらず、規模や対
象を考慮しつつ再開していき、「あじさい」を知っていただく機会や入居者の楽しみの機会を
徐々に取り戻していきたい。

入居者やご家族のありようも多様化してきており、それぞれの入居者ごとの様子や変化に
気づき対応できるよう、研修や職員会議を通じて意識向上や能力向上に努めていく必要があ
る。

物価高騰は引き続き継続しており人件費も高騰する中、収入は公定のものである性質から
さらに厳しいコスト管理が求められる。また、開設から年数もたち、施設備品の劣化が目立
ってきており適切な修繕対応の必要性がさらに増してきている。空床をできるだけ減らし、
かつ適切な支出を行うことをさらに継続していく必要がある。

これらのことで、入居者・ご家族・職員が安心できるあじさいを継続的に運営していく。

3. 令和6年度 ケアハウスあじさい 事業報告(資料)

(1) 平均年齢

R7.3.31

年齢	人数	平均年齢	最高齢	最低齢
男性	11	84	98	72
女性	25	84	97	69
計	36			

男女別年齢状況

年齢	男性	女性	合計
60～69	0	1	1
70～79	4	4	8
80～89	4	15	19
90～	3	5	8
合計	11	25	36

(2) 入退居月別推移

月	入居	退居	退居理由	退居先
4	0	1	高齢によるADLの低下と認知症の進行	グループホーム
5	1	1	高齢によるADLの低下と認知症の進行	老健
6	0	0		
7	0	1	高齢によるADLの低下	特養
8	1	1	病状悪化により逝去される	
9	0	1	病状悪化により逝去される	
10	2	0		
11	1	0		
12	1	1	認知症の進行	特養
1	0	0		
2	0	2	高齢によるADLの低下と認知症の進行	老健・特養
3	1	1	老衰により逝去される	
合計	7	9		

(3) 介護保険サービス等利用状況(累計)

訪問介護

事業所名	R5	R6
あじさい	23	26
ひまわり	4	3
南ふれあい	1	0
サンキ・ウエルビー	1	1
ちやいむ	3	2
あゆむ	4	4
かるがも	0	1
ももの木	0	1

訪問看護・リハビリ

事業所名	R5	R6
たんぽぽ	1	0
佐藤病院	1	1
あーくす	1	1
アミューズ富永	1	1
とみまち	1	0
まりな	1	0
まいんど	1	1

デイサービス・デイケア

事業所名	R5	R6
ふるさと	12	10
愛光苑	1	1
どるちえ	5	5
アルフィック十日市	2	1
アイル岡南	1	1
塚崎整骨院	1	1
健リハビリ	2	2
リファイン	3	3
西市	1	1
ムーブメントプロ	1	1
ツクイ	3	4
やすらぎ	2	2
あゆむ	1	1
南ふれあい	2	0
美咲	2	0
みゆき	1	0
フロアール	2	2
創心会	2	1
ほがらか	1	2
なみき	1	2
かるがも	0	1
あおえ	0	1

(4)要介護度

	R5	R6
自立	3	3
要支援1	2	5
要支援2	8	6
要介護1	11	12
要介護2	9	6
要介護3	1	2
要介護4	4	2
要介護5	0	0

(5)受診医療機関診療科目

診療科名		
内科	心臓外科	整形外科
呼吸器科	精神科	眼科
循環器科	心療内科	耳鼻科
泌尿器科	歯科	皮膚科

(6)救急・事故及び苦情解決状況

救急・事故

救急	3件	転倒 3
事故報告	39件	転倒 28、転落 6、誤薬 1、薬飲み忘れ 4

苦情解決

日 時	苦情内容	解決策・結果
0件		

(7)入院状況

性別	理由	入院先	入院～退院
女性	体調不慮	かとう内科診療所	R6. 3. 3～5. 7
女性	貧血検査	労災病院	R6. 4. 17～26
男性	白内障手術	労災病院	R6. 6. 13～15
男性	検査入院	労災病院	R6. 6. 17～23
女性	病状の悪化	労災病院	R6. 7. 5～8. 11(逝去)
女性	感染症	岡山大学病院	R6. 9. 3～25
男性	腎不全・心不全	労災病院	R6. 9. 13～23
女性	蜂窩織炎	労災病院	R6. 9. 24～27(逝去)
男性	水頭症手術	労災病院	R6. 10. 7～22
男性	腎不全・心不全	労災病院	R6. 10. 7～19
女性	体調不慮	セントラルシティ病院	R6. 10. 18～11. 16
女性	体調不慮	かとう内科診療所	R6. 11. 1～10
男性	左大腿部骨折	労災病院	R6. 11. 3～12. 15
男性	病状の悪化・薬の調整	旭東病院	R6. 11. 21～12. 6
女性	検査入院	かとう内科診療所	R7. 1. 4～16
女性	腰椎症性脊髄炎手術	労災病院	R7. 1. 7～3. 11
女性	精神的不安定	慈圭病院	R7. 1. 16～3. 18
女性	心不全	日本赤十字病院	R7. 2. 10～19
男性	病状の悪化	慈圭病院	R7. 3. 10～
女性	リハビリのため	岡山リハビリテーション病院	R7. 3. 11～5. 10

(8)入居相談状況

①相談方法別(件)

電話	来舎見学
9	6

②相談者別(件)

本人	家族	関係機関	その他	合計
4	7	3		14

(9)研修

外部研修	日付	研修内容
感染症対策研修	11月26日	高齢者施設における感染症の理解と対応
身体拘束廃止研修	8月9日	介護技術①(基礎編)または介護過程の展開
	11月12日	身体拘束廃止に向けて何ができるのか
事故防止対策研修	2月19日	ケア場面での気づき
虐待防止研修	10月23日	モンテッソーリ教育のメソッドを高齢者介護に応用した研修
	1月15日	適切なコミュニケーションを実践する

認知症研修	7月16日	認知症の理解
	12月11日	介護職員のための認知症ケア研修
その他	9月6日	介護現場で必要な接遇・マナー
	2月4日	部下のやる気を引き出すチームリーダーの役割

内部研修	日付	研修内容
感染症対策研修	7月30日	嘔吐物処理の仕方と防護服の着用の仕方について
事故防止対策研修	3月25日	事例検討

(10)趣味・余暇活動実施と評価

活動名	実施日	内容	総評価
あじさい喫茶	9月	敬老会(喫茶&演奏会)	今年度もコロナウイルス感染症が流行し、喫茶は敬老会のみとなったが、今年は入居者の家族の方で音大出身の方がいらっしゃり、フルートとオーボエの演奏をしていただいた。入居者がなじみのある曲も演奏されたりと、とても入居者に喜んでいただけた。今後は感染症に気をつけながら色んな工夫をし、入居者により楽しんでいただける喫茶を企画していきたい。
ヨガ教室	毎月1回	講師の指導のもと、その人に応じた姿勢を保ち呼吸法に合わせ、マットや椅子を使用して無理のない動きでゆっくり体を動かす。	今年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため中止となる。
押し花教室	毎月1回	フォトスタンド、ミニ色紙、コースター、しおり、ハガキ	今年度もコロナ感染性がなかなか治まらず開催できない月もあったが、感染症が落ち着いていた月には押し花教室を行うことができた。参加された入居者は会話をしながら楽しそうに作品作りをされていた。
いきいきクラブ	4月	ストレッチ体操・風船バレー	いきいきクラブでは、入居者からのアンケートをもとに、できるだけ身体を動かすことを目的に、体操やストレッチを中心に行った。言葉選びや脳トレなどの認知症予防に関する要素も取り入れたレクリエーションなどで楽しみながら参加していただけるよう企画し行った。気候の良い時期には外に出かけ、公園などの安全な場所でのウォーキングなどを行った。後半にはボランティアさんによる落語会があり、生活の中にはりを持たせることができた。
	5月	ウォーキング(浦安公園)	
	6月	ポッチャゲーム	
	7月	ストレッチ体操・コグニ体操	
	8月	ストレッチ体操・筋トレ・言葉遊び	
	3月	落語(ボランティアさんにより)	
園芸クラブ(草花)	園芸クラブ(押し花)	施設周辺に季節の草花を植え、散歩コースを造る。珍しい植物を植えたり、草取りもし、入居者と共に話題づくりをする。	植物の成長を見ることで季節感を味わっていただけた。庭にできた季節の草花を入居者の方と一緒に摘み共用スペースや居室に飾り、入居者にも喜んで頂けた。お元気な入居者で草抜きや枯葉集めを積極的して下さる方がいて助かっている。
園芸クラブ(野菜)	園芸クラブ(野菜)	季節に応じてアスパラ・大根・玉ねぎ・さつま芋を植えつけ収穫する。又、収穫した野菜はそのまま、或いは加工しふるさと祭りなどで販売することで入居者の作業意欲へと繋げることを目的としている。	今年度も昨年度と同様アスパラや大根、サツマイモなどを作ることができた。収穫した野菜は芋煮会や普段の食事に使っていただき、季節の旬な野菜を食べていただくことで入居者に喜んでいただけた。また、昨年度コロナ感染症予防の観点から漬物を漬けることができなかったが、今年度は感染症予防に気をつけながら漬物を漬けることができて良かった。
おでかけでえ	毎週月曜日と不定期	スーパーへの買い物援助、外食計画援助、市内での催し物(希望外食・講演会など)外出計画援助	新型コロナウイルス感染症により催し物などは中止した。週1回の買い物は感染性拡大時には中止し、職員で代行した。感染が落ち着いていた月には大型スーパーを近隣のスーパーに変更して行うことができた。

(11)行事・交流事業・各会議実施状況

月	日	行事名 内 容	日	地域交流行事	会 議
4	5	お花見食事会(1・2棟)	14	子ども食堂	企画運営会議
	9	いきいきクラブ			サービス調整会議
	25	茶話会			給食委員会
	30	健康診断			身体拘束廃止委員会
5	12	母の日の贈り物	19	子ども食堂	企画運営会議
	14	いきいきクラブ			サービス調整会議
	21	茶話会			給食委員会
	28	昼食出前食事会			感染症対策委員会
6	7	施設内清掃除	2	地域一斉清掃	企画運営会議
	16	父の日の贈り物	8	浦安祭り会議	サービス調整会議
	25	いきいきクラブ	23	子ども食堂	給食委員会
	26	避難訓練			
	27	茶話会			
7	6	七夕飾り	6	浦安夏祭り	企画運営会議
	23	いきいきクラブ	21	子ども食堂	サービス調整会議
	28	茶話会	23	キッズチャレンジ教室	給食委員会
					身体拘束廃止委員会
8	25	茶話会			企画運営会議
	29	いきいきクラブ			サービス調整会議
					給食委員会
9	13	敬老会(喫茶&演奏会)	14	浦安学区祭り	企画運営会議
	17	お月見会(夕涼み会)	29	子ども食堂	サービス調整会議
	24	健康診断(深夜勤務者)			給食委員会
	26	茶話会			感染症対策委員会
10	23	茶話会	6	浦安荘コンドル祭り	企画運営会議
	25	ポッチャ大会&芋煮会	12	白鳩保育園運動会	サービス調整会議
			27	子ども食堂	給食委員会
					身体拘束廃止委員会
11	14	インフルエンザ			企画運営会議
		コロナワクチン接種			サービス調整会議
	22	避難訓練			給食委員会
	27	秋の小旅行			
12	20	あじさい忘年会	15	子ども食堂	企画運営会議
					サービス調整会議
					感染症対策委員会
1	8	初詣	19	子ども食堂	企画運営会議
	14	とんど焼き			サービス調整会議
		大根漬物作り			給食委員会
	29	ふるさと祭り&新年会			
	31	茶話会			
2	3	節分豆まき	16	子ども食堂	企画運営会議
	14	バレンタインの贈り物			サービス調整会議
	23	茶話会			給食委員会
					身体拘束廃止委員会
					感染症対策委員会
3	3	桃の節句	15	白鳩保育園卒園式	企画運営会議
	25	避難訓練	16	子ども食堂	サービス調整会議
	29	茶話会			給食委員会

※毎月一斉清掃を入居者さんに参加していただき行っています。

デイサービスセンターふるさと事業報告（案）

（令和6年度）

1. 基本方針

在宅で生活している認知症高齢者を対象として、可能な限り自宅で、その有する能力に応じて、自立した質の高い生活が出来るよう、プライバシーを守り、的確な支援を行っていく。また、介護者や家族の相談や情報提供に積極的に取り組み、介護者の心身にわたる介護負担や、不安を軽減し、ゆとりある介護を生み出していく。そして、このことにより、認知症高齢者の心の安定を図り、生き生きとした暮らしづくりへとつなげていく。

「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」というケアの方針を基に、画一的なケアではなく、以下の6つの方針を持って認知症高齢者一人ひとりに合った援助を行い、「情」を大切にしたいゆとりあるケアを行っていく。①独りぼっちの気持ちにさせず、話し相手があること。②適度な心地よい刺激がある。③くつろげる、家庭的な環境にある。④その環境に自分の居場所があるという実感がある。⑤強制ではなく「したいこと」ができる。⑥生きがいや出番・役割がある。そのため、介護保険の枠内だけでのケアではなく、外出支援などQOLの向上を図る為に必要な援助を積極的に実践していく。

また、地域に開かれた「ふるさと」をめざして、地域住民との交流や地域ボランティアの受け入れを他部署と連携協力し、積極的に行っていく。

2. 令和6年度重点目標に対する評価・反省

（1） 安定した運営が行えるように、利用者の確保と、業務改善に取り組む。

① 事業所のPR、広報活動を行う。定期的にブログを更新し、情報発信を行う。

- ・ 毎月の利用状況のお知らせ、利用実績はfaxでの連絡を行い、その他連絡があれば電話での情報の交換を行っていった。又、月ごとの曜日別空き状況を合わせて連絡していった。
- ・ ホームページの活用が出来なかった。新規のご紹介をいただける際、ホームページを見て連絡下さった方もおられる。日頃の様子、事業所の特徴を伝えられるようにSNSを活用していきたい。

② 各職員が意識を持って利用者確保に努める。

- ・ コロナウイルス感染症の影響（本人及び、ご家族の感染）で、利用を休まれた方はおられた。
- ・ 空き状況の問い合わせが数件あった。定員や受け入れ態勢の状況でどの曜日でも受け入れ出来る状況ではなかったが、その都度受け入れ出来る曜日をお伝えしていった。新規の居宅介護支援事業所からの紹介があったこともあったが、利用にはつながらなかった。
- ・ 1月、2月に入院、施設入所になった方が続き、ご利用者が減少した。

③ 職員一人ひとりの介護技術を向上させ、効率的な人員配置を行う。

- ・ 利用者確保の為、選ばれる事業所になる為に職員の資質の向上、援助内容の改善など、その都度行っていた。
- ・ 職員一人一人が利用者様の事を考え、その方を想った声掛け・援助が出来るようになってきていると思う。

④ 経費の節約を計画的に取り組む。

- ・ 使用していない照明を消す、浴室の冷暖房の適切な使用について取り組んだ。
- ・ 又消耗品の購入先をその都度検討し、経費削減に取り組んだ。

⑤ 法人内の介護保険事業所と定期的に連絡を取り、介護保険の情報や、周辺の介護保険事業所の情報を交換し、事業所間の連携力を高める。

- ・ 毎月1回定期的に実施されるサービス調整会議に参加することで、法人内の介護保険事業

所との連絡・調整・連携など図れている。

- ・周辺の介護保険事業所との情報交換については、連絡を細かく取るなどして取り組んでいきたい。
 - ⑥ 独自の自己評価（事業所及び職員個人）を実施し、意識改善、業務改善に努める。
 - ・事業所の評価については、岡山市の自己点検シートを使い評価を行い、業務改善に努めた。
 - ⑦ 通所介護における、各種マニュアルを作成し、全職員のケアの統一に活用する。
 - ・職員同士のコミュニケーションを図る中で情報の共有や、ケア方針の検討を行っていった。
 - ⑧ リモートワークを取り入れ、事務作業の適切な実施、効率化を図る。
 - ・リモートワークについては、取り入れることが出来なかった。公平化、適切化を図れる方法を考え、事務作業がスムーズに行えるよう、取り入れていきたい。
- (2) 認知症の専門性と質の向上、科学的根拠(理論)に基づいたケアの重視。
- ・施設内研修に参加、参加出来なかった職員には、研修資料を見て頂いた。研修をより生かせるように、報告書、感想などを書いていただく用紙を作成していきたい。
 - ・情報誌を定期購読し、活動の中に取り入れていき、幅を広げることができた。
 - ・外部研修への参加が出来ていないので、研修の案内、研修に参加しやすい方法を考え、参加率を上げていきたい。
- (3) 特色(専門性)のあるサービスを実践し、地域から信頼される事業所にしていく。
- ① 職員間のコミュニケーションを積極的に行い、小規模ならではの家庭的な雰囲気を大切に「ふるさと」で安心して過ごして頂き、利用者が継続して在宅生活を続けていけるような支援を行っていく。
- ・職員個々が利用者の事を考え、安心して過ごして頂けるのにはどう支援を行っていったらよいのか検討を行いながら支援する事が出来ていると思う。
- 実施するに当たっては柔軟な対応が出来る職員の確保や通常の営業時間帯の職員数確保、安全な環境など様々な問題を考え実施出来るように検討を行う。
- ② 「ゆっくり」、「一緒に」、「楽しく」、そして「その人らしさ」を大切にしていく。
- ・部会をする時間の確保が難しく、行うことが困難な状況であった。職員間で状況をみながら相談を行いながら対応を行っていった。細かい連絡事項を目につきやすいで統一出来る対応が出来るように行っていった。
 - ・ ゆっくり、落ち着いて利用できる入浴環境、介護機器等を整備し、入浴困難な認知症高齢者を積極的に受け入れ、気持ちよく入浴していただく。
 - ・利用者ひとり一人の身体状況にあった浴室で、安全を確保しながらゆっくりと個人のペースに合わせて入浴していただいた。
 - ・入浴介助研修を行った中で、安全面で必要な物品の希望があり取り入れていった。設置することで、安全に入浴していただける要因になった。
- 又、入浴介助マニュアルを作成し、ケアの統一を図っていった。
- ③ 他の事業者で、利用困難な方でも、「ふるさとなら大丈夫。」と思われるようにしていく。
- ・認知症対応型、少人数、個別対応ということで、今まで紹介がなかった居宅介護支援事業所からの利用、問い合わせがあった。
- 空き状況に余裕がない状況があり、問い合わせがあった方とのご都合と合わずにご利用に繋がらない事もあった。
- そんな中でも、少人数・認知症対応型ならではの利用者を受け入れ、利用に繋がれた事もあった。
- ④ 認知症対応型通所介護事業所ならではの細やかな対応を重視し、BPSD（周辺症状）の出現を回避する為の環境整備に積極的に取り組み。
- ・その方の性格や認知症症状に合わせ、落ち着いて過ごせる環境作りを行っていった。

- ⑤ より安全を考慮した空間、居心地の良い場所の提供が出来るよう、必要に応じ設備・備品を検討していく。
脱衣場の冬場の環境を良くする為に、温風機を購入した。
- (4) 地域のボランティアによる余暇活動を積極的に取り入れていく。
- ① 地域の活動にも参加していき、地域の社会資源の活用を検討していく。
5 類に移行後、地域関連行事が再開されていることもあり、法人全体として参加していった。
- (5) 安全管理及び衛生管理を研究し、取り組んでいく。
- ① ヒヤリハットの考え方を事故防止に定着させる。
・記録を残すという事が今年度は、行えていない。職員個々が意識を持ち、記録を残し、意識付けをするという事を改めて行えるよう実践していきたい。
- ② 認知症高齢者に対するリスクマネジメントの目的を把握し、その人らしい生活を安全かつ快適に実現出来るよう支援してく。
その人らしい生活とは奥深く、安全を重視すると本人らしい生活からかけはなれる場合があるので、その都度利用者の状態に合わせ支援していきたい。
- ③ あらゆる感染性疾患への迅速な対応の為、職員全体が感染症マニュアルを熟知・活用し、万が一の場合にも拡大を最小限にしていく。
感染症対策においては、法人内研修に参加を行ったり、感染者、感染の疑いの利用者、職員が出た時にはマニュアルを活用し、対応を行っていった。
- (6) 食事の提供方法を再検討していく。
- ① 人員を割く事が難しく、給食委員会に出席出来ない事が多かった。
感染症予防の為、外食やおやつ作りなども控えさせていただいた。
出前をとるという形で、ケアハウスと合同で実施させて頂き、食事に変化を持っていただいた。
外出出来ない方、外出する事に気が進まない方もおられるので、出前という形で、ご自分で食べたいメニューを選ぶ、いつもと違った食事をするという事が出来、喜んで下さっている。
感染状況が落ち着いてくれば、おやつ作りなど、食の楽しみが持てる機会を増やしていきたい。
又、口腔内の問題で、食が進まない方もおられる。口腔ケア、嚥下、にも視点をおき、口から楽しく食事が摂れるよう様々な面からアプローチしていきたい。
- ② 担当職員が責任を持って既製品の購入やお菓子作りなど実施してきた。
昨年度に引き続き畑でさつま芋を栽培、植え付け収穫を利用者様と共に行った。収穫したさつま芋や、頂いた果物類、ケアハウス畑でとれた大根を使いおやつを作り、畑でさつまいもを植え皆で収穫、出来たさつまいもをふかし芋や焼き芋にして食べて頂いた。又、植えている柑橘類をいただきおやつに使わせていただいた。
果物やさつま芋は、おやつにお出しすると好評だった。来年度も収穫したものを使ったおやつ提供やおやつ作りを実施していきたい。
又、会話の中で、〇〇のシュークリームが食べたい、などのお話があり、来年度はご利用者様に購入費をご負担いただき楽しめる機会を作っていきたい。

3. 事業内容

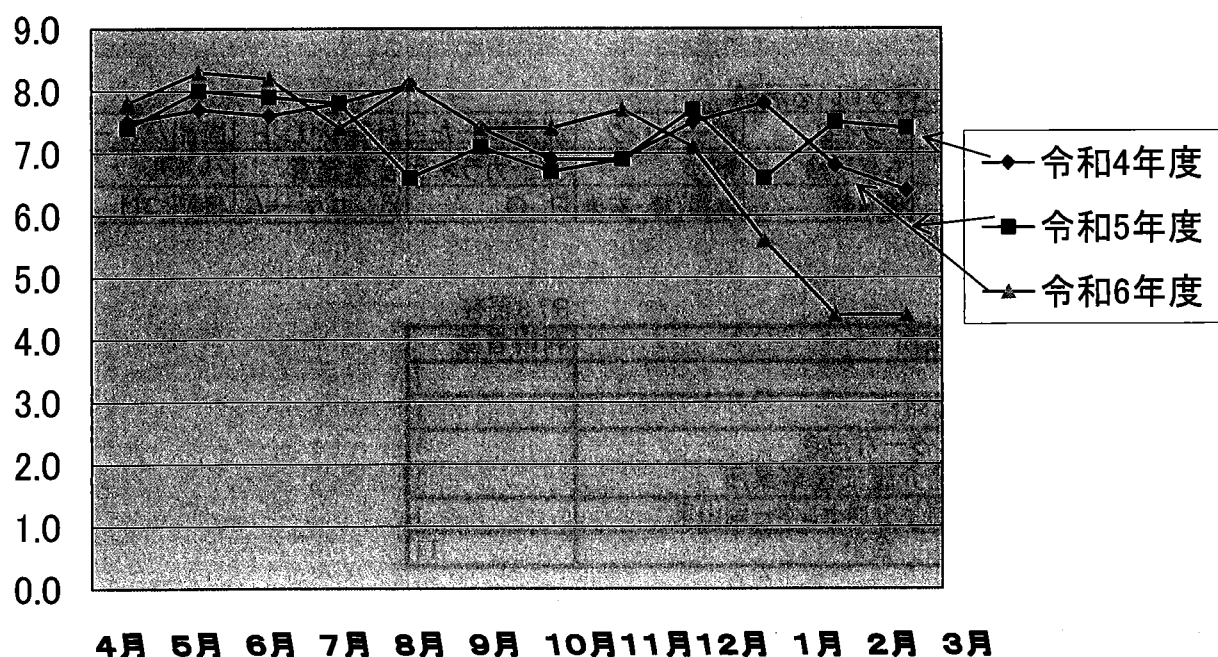
サービス内容、重点目標他についての評価・反省

- (1) アクティビティー・サービス（レクリエーション・行事・体操・機能訓練等）
 - ・行事については、年間計画を立てていたが行えていないものがあつた。行事を行い、日々のご利用の中で変化をつけていきたい。計画の仕組みを見直し、行事が行えるような方法を取っていききたい。
 - ・外出の機会が昨年度に比べると多かつた。外出から帰られた後、ご利用者様が「良かつた。」「きれいだった。」「楽しかつた。」「また連れて行ってえよ。」などのお声があり、行事の中に取り入れ継続していききたい。
 - ・機能訓練においては、看護婦主導のもと、残存時脳の維持、出来るだけ在宅での生活が継続できるよう支援を行っていった。
- (2) 送迎 家族の状況・ご本人の生活リズムに合わせ、要望に出来るだけ答えられるよう対応を行っていった。
又、自宅での排泄介助が難しい利用者に対し、お迎えに行き、そのまま来て頂き援助も行った。
今後も同様に柔軟な対応が出来るよう、サービスが使いやすいような対応を行っていききたい。
- (3) 健康チェック・感染症対策
日々の利用者の健康チェックについては、看護師により行っていった。
コロナウイルス感染症対策としては、状況に合わせ利用の制限については緩和していった。
手指消毒、施設内の消毒、換気については、継続しておこなっていった。
- (4) 家族の支援 認知症を抱える御家族の精神的な介護負担は大きく、支援・サポートの必要性を感じる。送迎の際に相談やご利用の様子をお伝えし、家での様子をお聞きし、お会い出来ない場合は電話での連絡を行い、相談援助を行っていった。
運営推進会議を行いご家族に参加いただいた。ご自宅での介護のお困りごと、大変な事などをご家族同士でお話が出来、よい機会になったと思う。今後もご家族の参加をお声掛けし継続していききたい。
- (5) 事故発生 病院受診に繋がる事故が1件起つた。
職員の介護技術、危険予知、の面でも資質の向上の必要性がある。
- (6) 相談・苦情等 相談については、その都度担当者会議の時、送迎時、電話などで行っていった。ご家族にアンケートを取らせていただき、苦情、要望などお聞きすることが出来た。苦情については、職員に周知、対応を行っていった。今後もアンケートを取らせていただき、ご意見を聞ける機会を作っていききたい。
- (7) 併設施設（ケアハウス）との関係・今後について
企画運営会議の中で話を行っていたが、途中より話が進まなくなつてしまった。
全体的な運営方針、それに合わせてのふるさとの運営方針を決めていく為にも来年度は協議を行い、方向性を決めていききたい。
- (8) BCP（事業家族計画）
BCPの作成を行っていった。今後は感染症、災害が起つた時に安全に不安なく行えるよう法人内ですりあわせを行っていききたい。

令和5年度年間利用実績(資料)

	利 用 者 状 況					
	利用者人数	開所日数	月延利用人数	1日平均利用人数		
				令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	16	22	172	7.5	7.4	7.8
5月	15	23	190	7.7	8.0	8.3
6月	15	20	164	7.6	7.9	8.2
7月	14	23	171	7.8	7.8	7.4
8月	15	22	178	8.1	6.6	8.1
9月	14	21	156	7.4	7.1	7.4
10月	14	23	171	6.9	6.7	7.4
11月	13	21	162	6.9	6.9	7.7
12月	15	22	156	7.5	7.7	7.1
1月	11	20	113	7.8	6.6	5.6
2月	9	20	88	6.8	7.5	4.4
3月	11	21	92	6.4	7.4	4.4
合計	162	258	1,813	7.4	7.3	7.0

年間利用者実績
1日あたりの平均利用者数



介護度別登録数(R7.3現在)

	男性	女性	合計	(人)
介護度5		0	0	
介護度4	2	1	3	
介護度3	1	1	2	
介護度2		2	2	
介護度1		4	4	
要支援2		0	0	
区分変更中		0	0	
合計	3	8	11	
平均年齢	82.3	86.2	85.2	

行事実績表

月 日	行事名	月 日	行事名
4月5日	お花見食事会	10月25日	ぽっちゃ大会 芋煮会
4月8～12	お花見ドライブ(ソメイヨシノ)	11月22日	避難訓練
5月13～16	浦安公園散策	11月25日	誕生日会
5月24日	出前食事会	12月17日	誕生日会
6月16日	避難訓練	12月25日	忘年会
7月5日	七夕会	1月10日	初詣
7月10日	誕生日会	1月14日	とんど焼き
7月18日	誕生日会	1月23日	誕生日会
8月22日	誕生日会	1月29日	ふるさと祭り&新年会
8月12～16	夏祭りレクリエーション	2月3日	節分
9月10日	誕生日会	3月3日	桃の節句
9月19日	誕生日会	3月20日	運営推進会議
9月13日	敬老会	3月26日	避難訓練
10月12日	運営推進会議	3月26～28	お花見ドライブ(河津桜)
10月16日	誕生日会		

上記以外日常的に行っている活動

脳活性療法	ドライブ	ボールレク	洗濯物たたみ	計算プリント	風船バレー
回想法	ちぎり絵	散歩	うた・カラオケ	音楽鑑賞	パズル
かるた(ことわざ)	塗り絵	体操(棒・玄米)	R. O	ビンゴゲーム	日記つけ

登録利用者の状況

①ケアマネジャーの状況

R7.3現在

居宅介護支援事業所	利用者数
福文舎	7
支援センターちやいむ	1
在宅介護支援センターなみき	1
アミューズ富永居宅介護支援事業所	1
サンキ・ウエルビー居宅介護センター岡山東	1
合計	11

令和6年度ヘルパーステーションあじさい事業実施報告

1. 事業内容

訪問介護及び予防訪問介護・日常生活総合事業の月間登録者数は、49～60名で年度末に向けて上昇傾向、保険外自費サービスの月間利用登録者数は、3～5名で増減がありませんでした。ヘルパー職員の人員の変動があったものの利用者減ではないが、大幅な増加ということになっていない。ケアハウス入居者利用者数は13～15名で昨年同様で、地域利用者数が多いのが現状です。

(資料①・②) ケアハウス入居者の利用者におかれては、施設入所なられた方や1棟から2棟への転居がある中、入居者の入れ替わりがあるため、利用者数に変化ありません。また、ケアハウス入居者で新型コロナウイルス感染者や地域利用者で他感染症が疑われる状況が発生したものの、感染対策を講じた上で、訪問対応をしているため、感染症が発生によっての利用減はありません。

新規で利用者を紹介してくださる居宅事務所は、福文舎居宅支援事業所以外からたくさんあり、依頼のある利用者住所や居宅事業所は、主に、南区南地域からの問い合わせが圧倒的に多い(資料④) 様々な居宅事業所から問い合わせいただいている中、ヘルパーステーション事務所から遠いという理由で断ることはしておらず、対応可能な内容や利用希望時間前後の関係で訪問可能であれば、お受けしてきた。又、これまでの実績により、いわゆる困難事例利用者への訪問相談件数も多い。訪問の判断基準として、利用者様自身がこういったサービスを求めているのか、担当する居宅や後見人様がどのような生活をしていただきたいと思っているのかをよくお聞きした上で、なるべく偏見の目を持たず、慎重に判断してお受けし対応してきた。

ケアハウス入居者の利用してくださる方は、掃除・洗濯といった生活援助週1回程度での利用が依然として多い。同一敷地内減算という計算方法で、地域の訪問対し減算があるものの、出来にくい部分のみヘルパーに委ねることで、心身の安定した生活が送れておられているようで、入居者様は長期に渡り利用してくださるため、安定した収益も見込まれるため、可能な限りお受けしている。

地域利用者に関しては、要支援者においては生活支援訪問サービス(いわゆる家事支援)での依頼がほとんどである。日常生活支援総合事業の生活支援サービスの対応をしないヘルパー事業所が多く、依頼が集中している状況に変わりはなく、生活する上でお困りであれば、収益が少ないが、可能な限りお受けしている。今までお付き合いのない居宅介護支援事業所からの紹介もある。こちらでも可能な限りお受けしたく、依頼内容とヘルパー配置の可否で対応の有無の判断をしている。利用者増確保には、新規居宅支援事業所と新規利用者の獲得が必須であるため、初めて、新規紹介いただいた事業所については、より一層の誠心誠意の対応を心がけていこうと思っている。要介護者については、生活援助利用件数の方が多いが、年度後半より、自立支援を目的とした身体介護を含めたサービスを居宅に依頼し、1件あたりの単価をあげることに努めています。ケアハウス入居者対応時には、事務所と同敷地にあることで、訪問時間・回数のご希望に沿いやすい。また、これまでの状況から考えて、利用期間が安定し長期間であるため、可能な限りお受けしてきた。地域利用者については、移動時間を加味して訪問時間を検討する必要あり、訪問先の場所によっては、ヘルパーの人数も必要にもなるため、お受けできる日時が限られてくるが、今後も身体介護・生活援助に関わらず対応出来るヘルパーの有無でお受けする体制を取っていきたい。

本年度も、困難事例の依頼が多かった。介護拒否がある・セクハラ傾向・性的指向など事例は様々だが、「あじさいさんなら対応してもらえる」とご連絡をいただくため、可能な限りお受けしたいが、こういった利用者への対応は、ヘルパーの経験や対応力判断力も必要で、ヘルパー配置も慎重にならざるおえず、全ての依頼を受ける事は叶わず、歯がゆい思いもあったので、対応出来るヘルパーを増やすためにも、キャリア形成訪問指導事業や事業所内研修を利用してヘルパーの育成に

努めてきた。

介護保険外自費サービスにおいては、昨年度に引き続き定期での依頼に加え、不定期であるものの室内の簡単な修繕・草取り、短期間なので、介護保険を使わず利用したい、有償運送と併用した受診付き添いなど、目的が明確な利用をされている。具体的に何をしてほしいかの意向と費用負担をきちんと理解した上で、自費サービスの依頼くださっているため、対応内容には満足していただけるようである。自費サービスの利用料が他事業所に比べ安いことが、利用に際しての魅力のひとつのようである。近年の利用者の意識も変わり、より自分の意向に沿った、より暮らしやすい生活を求めているようです。(資料⑤)

看取り期の訪問依頼があった。終末期においては、明日明後日からお願いしたいといった急な依頼がほとんどであるが、サービス内容が明確であり、利用期間も長期間ではないことが多いため、対応するヘルパーの心身の状況を踏まえ、一定期間集中して懸命に対応した。おそらく、本人様にもご家族様にも満足していただけた訪問対応を行ったと自負している。看取り期を迎えた利用者また支えている家族の真の要望は何か、またどのように接すればその人らしい最期を迎えることが出来るのか、体調に変化がないか、訪問看護や訪問診療への連絡はいつすべきかなど、自分の持っている知識をフル稼働させながら対応にあたることになることや本人への告知の有無で対応も異なりまた、利用者本人だけでなく家族へのケアも必要となってくる。看取りケアは、ヘルパーにとって心身をすり減らし気持ちの切り替えに時間を要するため、責任者としても様々なフォローにより時間や労力も使うが、こういった経験をしたことで、自主性や知識を深めることが出来、質のよいヘルパーが育つ機会にもなったと思う。利用期間も短いため収益には繋がりにくいですが、意識的に依頼を受けていきたい。ヘルパーステーションあじさいに相談しようと思っていただけのような気持ちをこめた支援を日頃から行うことで居宅支援事業所等と信頼を今後も築いていきたい。(資料④) 移送サービスについては、令和3年6月より有償運送を実働開始している。岡山市のホームページに記載されているので、利用希望のご本人様やパソコン・スマホを扱えるご家族からも直接問い合わせ連絡があり、居宅事業所からの連絡問い合わせは月々必ずある。ケアハウス入居者への対応を主の目的といていたが、地域の方々からの連絡も、定期的にある。運転者が限られていることや人件費の問題もあり、問い合わせの方々に全て対応出来ない。利用者様の安全で安心出来る移動ツールとして、可能な限りお受けしていきたいが、収益を考えれば、現在の介護保険訪問介護事業を優先したいと考える。利用者の満足度を考慮すると、継続した運営を続けていきたいが、もどかしさを感じながら、運営しているのが実情である。

2. 活動内容

① 事業内容

身体介護においては、可能な限りお受けし対応させていただきたいと思っている。毎日の同じ時間帯での帯状の対応が難しいが、本年度は、対応可能曜日時間はお受けしてきた。これまで生活援助のみで依頼を受けていたが、自立支援を目的とした身体介護を含めたサービスを提案し、単価を上げるよう努めてきた。生活支援においては、初回訪問開始時に決めた訪問回数に大きな変化がなく、家事支援を担うことで安定した生活を送れている方が多いようである。

現在、在籍のヘルパーで、対応可能な時間帯を当て込み、訪問を行っている。急な入院・施設入所により、突然訪問先がなくなることもあるが、長い期間をおかず、訪問依頼のお声掛けをいただいている。ヘルパーの定着のためにも安定した訪問件数の確保は常に課題である。

保険外自費サービスに関しては、依頼から具体的に何がしてほしいか明確な場合が多いため、各ヘルパーの得意分野を生かした配置をしている。いかにその人らしい暮らしを支えることが出来るか、こういった依頼もお受け出来る事業所体制を今後も整えていきたい。

又、どんなニーズにも対応出来るヘルパーの育成が必要と思われるため、積極的に研修への参

加を促してきた。

あらゆる状況で、こういったサービスでも長く在宅生活で暮らしていただけるよう生活環境・家族状況体調変化にもいち早く気付けるよう、サービス提供責任者からは的確な指示を行うこと、又、各ヘルパーには利用者に生活や生命をあずかっているという意識確認を図ること、ヘルパー間でも情報を共有し、知り得た情報を責任者へ確実に報告することを徹底していくことで、長期定期に安定した生活を支えていけるのではないかと考える。

② 研修

新型コロナウイルス・インフルエンザなどの感染症の状況に変化あり、対面研修・web研修選べるようになった。しかし、訪問対応優先により施設外の研修に参加出来なかった。事業所内研修又福文舎施設内研修外部研修は積極的に出席した。外部講師研修は、最新の制度の動向や介護・技術情報を知り得ることができ、少人数のため、積極的に質問が出来、有意義な学びの場になっている。施設外の研修については、他事業所の利用者状況・経営状況など情報交換が出来るため、来年度はさらに参加を促していきたい。事業所内研修については定期購読させていただいている資料を上手く活用しながら、研修を行ってきた。制度改正についての勉強や考察力・観察力・予測力を養うための机上研修も積極的に行っていきたいと思っている。(令和4年度実施報告参照)

個々のヘルパーが、スキルアップのために必要な個人的参加希望の研修があれば、状況に応じて勤務調整を行い、しっかりと学べる環境を整えていく方針も継続していきたい。

③ 各関係機関との連携

居宅介護支援専門員（以下ケアマネージャー）との連絡調整が、主になってくる。利用者の担当するケアマネージャーに、訪問時の変化や要望を、随時、報告連絡し合うことは、出来ている。常に利用者の状態を観察・把握することで、利用者のニーズ把握に努め、利用者を支える「チームケア」の一員であることを意識し、適切な情報提供を行ってきた。これからも、より利用者の立場になって支援していけるようケアマネージャーの言葉にも真摯に向き合って、個々の利用者様の対応に望んでいきたい。本年度より、サービス提供責任者2名にて、電話転送サービスを利用して各所からの相談・問い合わせをいつでもお受けできる体制にした。これにより、新規依頼への応答がとても素早くスムーズに行えるようになった。

④ ヘルパーの健康管理及び衛生管理

岡山県・市からの通知通達をもとに、適切な連絡報告を行って対応した。新型コロナウイルス感染症予防対策を軸として感染症対策は継続して行ってきた。今後も同様な対策を取っていききたい。ヘルパーと利用者に対して、マスク着用の徹底し、必要に応じての手袋着用・使い捨てエプロンの使用、手洗いや手指消毒の徹底を呼びかけてきている。

本年度は、ヘルパー職員が新型コロナウイルス陽性となり、濃厚接触者にて出勤停止したこともあった。これまでも、職員へは、感染予防対策を心がけるよう呼びかけてきたが、より一層の感染予防対策の徹底を再度認識してもらった。

我々が身につけるのは、エプロンである。不衛生にならないよう清潔に努めていく。

インフルエンザ等感染などその他の感染症を受けつけない又持ち込まない持ち出さないといった媒体にならないよう健康管理や衛生管理を徹底する。

⑤ 損害賠償

本年度、賠償を行ったケースはなかった。しかし、気を付けていても、破損に至ったケースが

何件かある。ご自宅に長年ある掃除道具が破損、「使っていて壊れそうだった」こともあるようだが、日ごろから利用者様に状況を伝えるといった丁寧な対応や信頼があったため、損害賠償に至らないケースであった。対応するヘルパー個々が心身を常に律することで破損・修繕件数をなくしていかなければならない。

3. 令和6年度ヘルパーステーション実施状況（別紙参照）

4. 介護度・月別利用者数（別紙資料①）

ケアハウス・地域利用者数（別紙資料②）

自費サービス利用時間数・収入・人数（別紙資料③）

関係する居宅介護支援事業所（別紙資料④）

訪問内容利用回数（別紙資料⑤）

令和6年度 ヘルパーステーション実施報告

ヘルパー事業・施設関係		研修・会議		新規・更新サービス担当者会議他	
月	日	内 容	日	日	
4	5	お花見会食	17	2	内容変更サービス担当者会議
	30	春の健康診断	17	25	更新サービス担当者会議
		訪問問合わせ3件	23	30	新規サービス担当者会議(終末期)
		有償運送問合わせ2件			
5	28	出前食事会	21	10	新規担当者会議
		訪問問合わせ2件		22	新規担当者会議
			22	23	更新サービス担当者会議
			22	30	内容変更サービス担当者会議
			24	31	新規サービス担当者会議
6	28	避難訓練(1棟夜間 想定)	12	4	内容変更サービス担当者会議
		訪問問合わせ3件	18	10	更新サービス担当者会議
			26	17	更新サービス担当者会議
				18	サービス担当者会議
				19	内容変更サービス担当者会議
				26	新規サービス担当者会議
				28	新規サービス担当者会議
7		訪問問合わせ3件	16	4	区変サービス担当者会議
			16	23	新規サービス担当者会議
				30	新規サービス担当者会議
			17		
			17		
8	25	ミニ夏祭り	21	12	新規利用サービス担当者会議
		訪問問合わせ6件	21	28	更新サービス担当者会議
			21	29	更新サービス担当者会議
			21	29	内容変更サービス担当者会議
9	13	敬老会	6	2	内容変更サービス担当者会議(終末期)
	14	浦安町内祭り		3	新規サービス担当者会議
	17	お月見会	18	12	新規サービス担当者会議
	24	宿直者健康診断	18	20	更新サービス担当者会議
		訪問問合わせ2件	18	24	内容変更サービス担当者会議
		有償運送問合わせ1件		30	内容変更サービス担当者会議
10	6	浦安荘祭り	11	1	更新サービス担当者会議
	25	ポッチャ大会・芋煮会		11	新規サービス担当者会議
		訪問問合わせ2件	16	29	更新サービス担当者会議
			16		
			23		
			23		
11	14	インフルエンザ予防接種	12	7	更新サービス担当者会議
	22	総合避難訓練・緊急時 対応		26	更新サービス担当者会議
		訪問問合わせ2件	20	26	更新サービス担当者会議
			20		
			20		
12	25	忘年会	11	6	内容変更サービス担当者会議
		訪問問合わせ7件	11	18	内容変更サービス担当者会議
			11	20	内容変更サービス担当者会議
				27	内容変更サービス担当者会議
			13		
1	29	ふるさと祭り・新年会	15	10	新規サービス担当者会議
		訪問問合わせ4件	15	21	更新サービス担当者会議
				21	内容変更サービス担当者会議
			17	22	新規サービス担当者会議
			29	28	新規サービス担当者会議
				29	更新サービス担当者会議
				31	更新サービス担当者会議

2		豆まき	4	キャリア形成訪問指導事業	19	新規サービス担当者会議
		訪問問い合わせ7件		リーダー研修	25	更新サービス担当者会議
			14	サービス調整会議		
			19	企画運営会議		
			19	キャリア形成訪問指導事業		
				ケア場面での気づき		
			26	集団指導		
			26	ヘルパー会議・ケース検討会		
3	25	避難訓練	12	企画運営会議	4	新規サービス担当者会議
		事故防止研修会	12	サービス調整会議	5	新規サービス担当者会議
					18	新規サービス担当者会議
					17	新規サービス担当者会議
					22	新規サービス担当者会議
					25	新規サービス担当者会議
					28	更新サービス担当者会議
					31	更新サービス担当者会議

令和6年度介護度・月別利用者数(資料①)

月(前年)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	14(12)	14(13)	14(12)	12(12)	14(12)	14(12)	13(12)	13(12)	14(11)	14(12)	15(13)	17(13)
要介護2	8(11)	8(12)	7(11)	6(11)	5(11)	8(11)	8(11)	6(10)	5(11)	4(9)	6(8)	8(10)
要介護3	5(7)	6(5)	6(6)	7(6)	7(7)	7(6)	7(5)	6(7)	7(8)	6(7)	6(8)	4(7)
要介護4	0(0)	1(0)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	3(1)	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)	4(1)
要介護5	2(0)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	1(1)	0(1)	0(1)	0(1)	0(1)	0(1)	2(1)
要支援1	6(6)	7(6)	7(6)	9(6)	10(6)	11(6)	11(9)	11(5)	11(9)	11(5)	10(9)	11(9)
要支援2	8(8)	8(9)	8(9)	8(8)	6(7)	8(7)	7(7)	7(6)	7(5)	7(3)	7(5)	6(6)
事業対象者	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	43(45)	45(46)	44(46)	44(45)	44(45)	50(45)	49(43)	47(41)	48(40)	46(38)	48(40)	52(42)

ケアハウス・地域別利用登録者数(資料②) * 請求保留分あり、資料①と利用者数同数でない月あり。

月(前年)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護給付												
ケアハウス	14(16)	14(17)	14(16)	13(16)	13(16)	13(16)	13(14)	14(14)	13(14)	14(13)	15(13)	16(14)
地域	16(16)	17(16)	17(16)	14(17)	17(16)	19(17)	19(17)	17(17)	17(17)	17(18)	19(19)	22(19)
予防給付												
ケアハウス	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	2(2)	4(2)	3(2)	3(2)	3(2)	3(2)	2(2)	2(2)
地域	12(13)	13(13)	13(13)	15(13)	15(12)	15(11)	16(11)	15(9)	15(9)	15(8)	15(8)	16(9)
自費のみ	5(4)	5(5)	5(3)	5(3)	5(3)	4(3)	4(4)	4(5)	4(5)	4(5)	4(5)	4(5)
計	49(51)	51(51)	51(50)	49(51)	52(49)	55(56)	55(48)	53(47)	52(47)	53(48)	55(47)	60(49)

自費サービス利用時間数・収入・人数(資料③) * 1時間=生活援助2000円、身体介護2500円

R6. 4月	1h×3 0.25h×13 0.5h×9 0.75h×1 0.25h×9 1h×3 0.75h×1 1.25h×1 0.5h×1 0.5h×3 1h×1 1.25h×1 0.5h×1 0.5h×3 1h×1 1.75h×1 3h×1 2h×1 R6、6月 計 59625円 7名	6000円生 4000円生 6000円生 4000円生 2500円生 4375円生 12500円生 6000円生 19500円生 3000円生 2000円生 1000円生 9375円生 13750円生 2000円生 6000円生 0.5h×4	1h×4 0.75h×1 0.5h×4 1h×1 0.5h×4 0.25h×3 0.5h×1 1.75h×1 3h×1 2h×1 R6、6月 計 59625円 7名	19000円生 1875円生 6000円生 4000円生 2500円生 4375円生 12500円生 6000円生 19500円生 3000円生 2000円生 1000円生 9375円生 13750円生 2000円生 6000円生 0.5h×4	1.25h×2 1h×1 0.25h×4 1.25h×1 1h×1 0.25h×14 0.5h×4 1.25h×1 1h×3 0.5h×3 1h×3 0.5h×1 0.5h×1 0.5h×4 1h×1 0.25h×2 0.75h×1 1h×1 0.5h×1 0.75h×1 12000円生 5000円生	42000円 4名 R6、7月 計 44250円 9名 R6、8月 計 56250円 7名	0.5h×8 0.75h×4 0.5h×8 1h×4 1.5h×1 1h×1 0.5h×2 1.25h×1 0.25h×4 0.5h×1 0.25h×3 0.5h×1 1h×1 0.25h×4 0.25h×9 0.5h×10 0.75h×4 1h×1 0.5h×1 0.25h×4 2000円生 5000円生 2500円生 2000円生 3500円生 2500円生 500円生 2000円生	0.75h×1 1.25h×1 0.25h×5 0.5h×4 1h×2 2h×1 1.25h×2 1h×1 1.5h×2 0.25h×1 1h×1 1.5h×1 3.25h×1 0.25h×3 0.5h×1 0.25h×3 0.25h×1 1.25h×1 2h×1 R6、11月 計 53625円 7名	13000円生 10500円生 17000円生 5000円生 2000円生 1875円生 2500円生 1500円生 2500円生 12500円生 500円生 1000円生

R7、2月	0.25h×3	1500円生
計2000円	0.25h×1	500円生
2名		
R7、3月	1h×1	2000円生
計5500円	0.5h×2	2500円身
3名	0.25h×2	1000円生

1h×1	2500円身	0.25h×3	
1h×2	4000円生	1h×1	
1h×2		0.5h×3	11000円生
0.75h×2	7000円生	1.5h×1	
1.25h×1	3125円身	0.75h×3	
1.5h×1		1h×1	6500円生
1h×3		0.25h×3	1500円生
0.5h×2		3.5h×1	8750円生
0.75h×1		1h×1	2000円生
2h×1		1h×1	2000円生
1h×3		R7、1月	0.25h×3
1.25h×1	20500円生	計	1500円生
計		15750円	5000円身
39250円		6名	2500円身
7名		1.5h×1	3750円身
		1h×1	2000円生
		0.25h×2	1000円生

関係する居宅支援事業所・令和6年3月現在(資料④)* ()は前年度

居宅介護支援事業所名	介護給付	予防給付
福文舎居宅介護支援事業所	17(17)	2(3)
在宅介護支援センターなみき	3(2)	2(3)
岡山南地域包括支援センター		3(2)
リファインケアプランセンター	1(2)	0(0)
あゆむ介護相談事務所	3(1)	
博愛会居宅介護支援事業所	8(6)	3(1)
アミューズ富永居宅介護支援事業所福富	2(1)	3(1)
ういーら居宅介護支援事業所		1(1)
在宅介護支援センターちやいむ		1(1)
佐藤病院居宅介護支援事業所		1(1)
計10事業所(昨年は12事業所)		

訪問内容別利用回数(資料⑤) * 介護給付は、同じ方に1日数回訪問も含め計算。

月(前年)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
身体介護	90(60)	97(58)	98(59)	88(63)	86(73)	83(84)	71(82)	68(79)	72(90)	79(97)	76(76)	66(97)
生活援助	114(118)	120(130)	128(138)	133(148)	143(145)	139(145)	124(145)	136(135)	125(140)	120(125)	127(108)	135(128)
身体生活	51(11)	52(27)	50(25)	46(27)	44(26)	43(26)	53(30)	42(32)	42(26)	51(41)	47(45)	44(50)
計	314(187)	335(215)	343(222)	332(238)	329(244)	326(255)	320(257)	295(246)	281(256)	280(263)	288(229)	287(275)

* 予防給付は1ヶ月に何回訪問しても1回として計算

生活支援I	12(12)	12(12)	12(11)	12(12)	10(12)	10(11)	9(11)	9(12)	9(13)	9(13)	9(13)	9(13)
生活支援II	2(1)	2(1)	2(1)	2(2)	2(1)	2(2)	2(2)	2(2)	1(2)	1(1)	1(1)	2(2)
生活支援III	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
予防訪問I	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
予防訪問II	1(2)	1(2)	1(3)	1(3)	1(2)	1(2)	2(2)	2(2)	2(2)	0(1)	0(1)	0(1)
予防訪問III	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	15(15)	15(15)	15(15)	15(17)	13(15)	13(15)	13(15)	13(16)	12(17)	10(15)	10(15)	11(16)

* 自費サービスの人数内訳

身体介護	3(2)	3(2)	2(1)	2(3)	0(2)	2(1)	1(2)	3(2)	0(2)	1(4)
生活援助	6(6)	5(7)	6(7)	8(7)	4(5)	4(7)	6(7)	3(7)	2(8)	2(6)
計	9(8)	8(9)	8(8)	10(10)	4(7)	6(8)	7(9)	6(9)	2(10)	2(10)

福文舎居宅介護支援事業所 事業報告

(令和6年度)

【事業目標取組結果】

(1) 居宅介護支援事業所の質の向上

(計画)

- ① 介護支援専門員質向上のための研修に参加・法定研修 主任介護支援専門員研修・主任介護支援専門員更新研修、岡山市介護支援専門員協会の研修、地域包括支援センター主催研修 等
- ② 事例検討会：年2回
- ③ 各種マニュアルの見直し
- ④ 感染症・災害にかかるBCPの作成

(実施結果)

- ・BCPマニュアルを作成する。
- ・南区南包括支援センターの行う地域ケア会議に参加し、事例を提出して検討を行った。

(評価)

- ・BCPマニュアルについては、令和7年4月からは義務化となっているため、岡山県介護支援専門員協議会がホームページに載せているマニュアルを参考に3月中に作成することができた。とりあえず作成しただけなので、今後社会福祉法人福文舎の各事業所との照らし合わせや、合同研修などに参加することで、実効性のあるものにしていきたい。
- ・南区南包括支援センターによるケア会議には依頼があれば積極的に出席することにしていた。包括支援センターからの信頼を得るには都合のいい機会となった。

(2) ケアプラン件数の適正化

(計画)

(2) 居宅介護支援事業所の評価

- ① 保険者によるケアプラン点検
- ② 介護支援専門員自己評価：10月
- ③ 事業所満足度調査：10月

(実施結果)

- ①岡山市介護保険課によるケアプラン点検の実施方法が変更され、令和6年度は、以下の要件のいずれにも該当するすべてのプランが対象

(a) R6.7月～R6年.8月利用分に初回加算を算定

(b) 要介護1

(c) 主治医意見書の日常生活自立度(認知症)がⅡaまたはⅡb

にすべて該当したプランがあったため、事前に資料提出し、令和7年1月30日(木)に電話での調査を受けた。

① サービスの質の向上

- ・各職員の知識や経験、情報を共有し自らの担当の業務に生かし、サービスの向上を目指した。

(評価)

- ・ケアプラン点検は、令和5年度も条件に該当し、予防プランのケアプラン点検を受けていたので、2年続けてとなった。5年前に受けたケアプラン点検はかなり高圧的だったが、今回のケアプラン点検はケアプラン作成でわからないところや新しい解釈などを、ケアマネジャーに対して寄り添ってくれるものであって、とても参考になった。
- ・他の目標は現在取り組み中です。

令和6年度実績集計一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域	ケア地域
支援1	0	12	0	10	0	10	0	10	1	10	2	10	9
支援2	3	11	3	11	3	9	3	10	2	11	1	11	10
介護1	7	20	6	22	6	21	6	21	5	19	5	18	7
介護2	7	9	7	9	5	7	5	7	5	10	5	8	5
介護3	1	8	1	6	1	7	2	6	2	5	1	5	1
介護4	1	3	1	4	1	5	1	3	2	2	2	4	2
介護5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	0
支援計	3	23	3	21	3	19	3	19	3	21	2	19	2
介護計	16	42	15	42	15	42	14	41	15	38	13	35	15
合計	84	82	81	80	77	75	77	74	77	76	69	74	926
初回(支)													0
連携(支)													2
初回(介)	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	7
入院Ⅰ	1		1	1									1
入院Ⅱ													0
退院Ⅰ有													0
退院Ⅰ無													0
退院Ⅱ有													0
退院Ⅱ無													0
退院Ⅲ無													0
ターミナル													0
加算計	3	1	0	2	0	0	0	0	1	0	2	1	8
認定調査					1	2				1	1	2	4
支援報酬	103,428	103,428	95,472	91,494	87,516	87,516	87,516	91,494	95,472	95,472	83,538	87,516	1,109,862 (円)
介護報酬	679,016	651,476	662,564	668,480	650,001	615,993	650,188	599,920	618,586	608,050	561,105	607,311	7,572,690 (円)
加算報酬	5,105	3,063	5,105	5,105	0	3,063	3,063	3,063	3,063	6,126	3,063	3,063	42,882 (円)
認定調査	0	0	0	0	9,900	0	0	0	0	3,300	3,300	13,200	29,700
報酬合計	787,549	757,967	763,141	765,079	747,417	706,572	740,767	694,477	717,121	712,948	651,006	711,090	8,755,134 (円)

居宅ケアプラン件数

件数

80

70

60

50

40

30

20

10

0

要支援

要介護

合計

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月